

新たなまちづくり スポーツによるウェルビーイングなまちづくりに関する 包括連携協定を締結しました



⑤ 都市計画課 まちづくり推進室 ☎(232)4927

町では、半導体企業集積に伴う今後の経済発展や人口増加に対応するため、新たなまちづくりの取り組みを進めています。

この取り組みの一環として、町と九州大学都市研究センター・三井不動産株式会社は、7月16日にスポーツによるウェルビーイングなまちづくりに関する包括連携協定を締結しました。



協定を締結した3者(左から三井不動産株式会社須永事業開発部長、吉本町長、九州大学都市研究センター馬奈木センター長)

本協定に基づき、町を舞台に日本で初めて「スポーツと住民の幸福度の相関関係を、特定の指標(腸内細菌など)を用いて見える化」する共同研究が進められます。

この共同研究が、総合体育館や、今後整備を進めるアーバンスポーツ施設で、スポーツを楽しむ町民の健康増進につながる事が期待されます。



事業内容を説明する九州大学都市研究センター馬奈木センター長

誰もが安全・安心に暮らせる町を目指して 第3回多文化共生連絡会議を開催しました



⑤ 総合政策課 企画政策係 ☎(232)2112

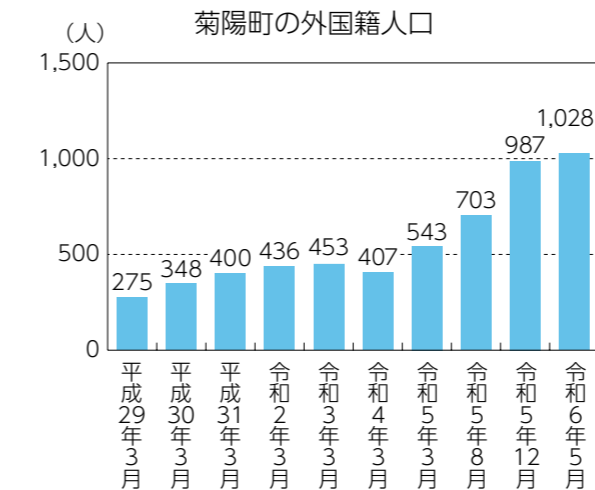
6月25日、令和5年7月に続き3回目となる多文化共生連絡会議を開催しました。

令和5年以降、台湾からの転入者を筆頭に、町内の外国籍人口は増加し続けています(下記グラフ参照)。このことから、現在の外国人住民の状況や町内での取り組みの進捗状況などを共有し、関係機関と引き続き連携して多文化共生を進めていくために開催したものです。

会議には、警察や消防、水道企業団、郵便局、社会福祉協議会、町区長会、町職員に加え、オブ



各関係機関の取り組みや課題などの情報共有が行われた



ザーバーとして県観光国際政策課、熊本市国際交流振興事業団、きくよう多文化クラブも参加しました。

町からは、令和5年度に友好交流協定を締結した台湾新竹県宝山郷との交流内容をはじめ、今年度新たに取り組んでいる「台湾アウトバウンド支援事業」の内容などを説明しました。

参加団体からは、団体の取り組みの状況や課題などの情報共有があり、それぞれが外国人住民に向けて作成したチラシ・パンフレットの紹介も行われました。

役場庁舎などの課題と今後の整備を検討 第1回菊陽町役場庁舎等整備検討委員会を開催しました



⑤ 施設整備課 営繕係 ☎(232)6500

建築から46年が経った役場庁舎などの課題を整理し、これからの庁舎のあり方や整備に係る計画などを策定するに当たり、整備内容などを審議するため、学識経験者、町内団体の代表、公募による町民代表など15人で組織する菊陽町役場庁舎等整備検討委員会を設置し、7月11日に第1回検討委員会を開催しました。

会議では、委員への委嘱状の交付と会長および副会長の選出を行い、会長には早稲田大学教授の田中智之委員が、副会長には熊本高等専門学校教授の森山学委員が就任しました。

その後の議事では、役場庁舎や隣接する中央公民館の現状と課題、課題の解消に向けた方策、整備方法の比較検討、新設を検討する健康保健センターも含めた施設の複合化など、町が整理・検討



役場庁舎などの課題や整備方法について意見を出し合う委員している庁舎などの整備の方針案について審議を行い、さまざまな意見が出ました。

検討委員会は、本年度内に3回程度開催する予定としており、最終的な審議結果を町長に報告することとなっています。

自治体DXでソフトバンク(株)と連携 CIO補佐官が就任しました



⑤ 総務課 デジタル推進係 ☎(232)4925

町では、副町長を最高情報統括責任者(CIO)として、デジタル技術の活用による業務の効率化と、住民サービスの向上を目指す自治体DXを進めています。専門的な観点からの支援をソフトバンク株式会社に委託し、7月1日に同社から小林秀樹CIO補佐官が就任しました。

12日に開催した任命式では、吉本町長が「業務が増え続ける今こそ自治体DXを強力に進める」、小林補佐官が「ソフトバンクグループ全体で町のDX推進をサポートする」とあいさつしました。

同時に、前金沢市長の山野之義さんが「DXの取り組み」として講演を行い、町職員はDXに取り組む意識を高めました。



任命書を受け取る小林CIO補佐官(右)と吉本町長(左)